

呼吸器外科部長に奥田教授が就任



呼吸器外科
奥田 勝裕 部長

このたび呼吸器外科部長（教授）を拝命しました奥田勝裕です。主に肺癌・縦隔腫瘍に対する手術治療・手術前後の薬物療法を専門にしています。当院では、身体に負担の少ない低侵襲手術（ロボット支援手術を含めた胸腔鏡下手術）を行っており、2016年以降は呼吸器外科手術（肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、気胸など）の95%以上を胸腔鏡下による低侵襲手術で完遂しております。これにより、術後入院期間は平均4日程度に短縮されました。さらに手術侵襲が低減されたことにより、周術期の合併症率が有意に低下し、術後免疫機能の低下が抑えられることもあって長期予後の改善が得られています。

病状が進行した方においては、個々に適した集学的治療（手術・薬物療法・放射線治療の組み合わせ）を呼吸器内科・放射線科の先生方と計画し、最適な治療を行っています。特に肺癌治療は手術・薬物治療（殺細胞性抗癌剤、分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害剤）において日々目覚ましい進歩を遂げております。私自身、名古屋市立大学・米国留学（Harvard Medical School, Dana Farber Cancer Institute）において肺癌の発癌遺伝子及び新規薬剤の開発研究に携わっていました。当院呼吸器外科の特徴は、薬物治療にも精通しており、手術前後に薬物治療を加味した最先端の最適な治療を届ける体制が整っている点です。呼吸器外科教員一同、日々研鑽を積んでおります。何卒よろしくお願い致します。

こうせい

みどり市民病院・みらい光生病院が医学部附属病院として開院します

2023年4月に、名古屋市立緑市民病院・名古屋市厚生院附属病院が名古屋市立大学医学部の附属病院となり、「みどり市民病院」・「みらい光生病院」に生まれ変わります。

これにより、名古屋市立大学病院・東部医療センター・西部医療センターとあわせて、附属病院群で約2,200床の病床数となり、5つの病院からなる附属病院群として、各病院が特長を生かしながら、高度急性期から慢性期まで幅広い医療を提供してまいります。

名古屋市立大学医学部附属みどり市民病院

地域密着型の大学病院として、地域医療のニーズに的確に対応した安全で高度な医療を提供する病院です。これまでの緑市民病院の医療や健診事業を継承しつつ救急の初期対応の充実や多様な疾患に対する治療を行うとともに、予防医療など地域住民の健康づくりを支援し、健康社会の実現に貢献してまいります。

また、附属病院群として初となるAIを用いた内視鏡機器や整形外科手術支援ロボットの導入を予定しており、高度専門医療の強化も図ってまいります。



みどり市民病院 外観

名古屋市立大学医学部附属みらい光生病院

健康寿命の延伸に向けて、心身機能の回復・維持を目指した医療を提供する病院です。予約制の専門外来を設け、様々な疾患に対して、関連する診療科が連携して横断的に診療を行う体制を整えるとともに、認知症やフレイルへの対応のほか、先駆的な技術を駆使したリハビリテーションを実施するなど、質の高い医療を提供してまいります。また、加齢性の皮膚変化や皮膚トラブル（皮膚疾患）へのレーザー治療などにも力を入れて取り組む予定をしております。



みらい光生病院 外観

さくらほっと NEWS

vol.58
令和5年春号



総合研修センターの 取り組みについて ...2

名市大病院のチカラ Vol.263

呼吸器外科部長に奥田教授が就任4
みどり市民病院・みらい光生病院が
医学部附属病院として開院します ...4

4月1日受付開始！ 救急・災害医療センター（仮称）名称募集

- 募集内容：令和7年夏開棟予定の新棟の正式名称
- 応募資格：名古屋市に在住・通学・通勤される方、当院の患者さん
- 応募期間：2023年4月1日（土）～4月28日（金）
- 応募方法：電子メール、院内投票箱、郵送
- 賞金・賞品：①名称採用者1名に賞金3万円（応募者が複数の場合、抽選にて1名）
②応募者の中から抽選で10名に記念品（大学オリジナルグッズ）
- 詳細は、4月1日以降に当院ウェブサイトをご覧ください。



名市大病院の総合研修センターを紹介します

【総合研修センターとは？】

総合研修センターでは①全国の医学生に当院の研修プログラムを紹介するリクルート活動②初期研修医の採用試験の催行③初期研修医の各病院や各診療科での研修のサポート④研修終了後の専門研修先への就職活動のバックアップなどを行っています。

【新しく医師になった皆さんの手ほどきをします】

そこで私が名市大病院の総合研修センター長に就任してからの活動内容を紹介したいと思います。2022年4月5日から4日間、名市大病院に入職した初期研修医に対するオリエンテーションが行われました。研修センターの先生方により、保険医療のシステム、医療書類の書き方、救急当直の実際、学会発表のイロハなどのレクチャーに加え、外科手技のハンズオンセミナーや、意識障害、血糖値管理のレクチャーが行われました。

【東部・西部医療センターとタッグチームを組んでいます】

4月8日には特別シンポジウムが行われ、現地参加した名市大病院研修医約40名の他に、東部・西部医療センターなどから約50名がWEB参加しました。基調講演をされた郡健二郎理事長は、自らの歩んできた道を語りながら、若き研修医たちに進むべき道の決め方をアドバイスされました。研修医たちは夢をもって4月からの名市大での研修生活を歩みはじめました。

【全国の医学部卒業生が集う病院になるために】

患者さん思いの優しい研修医に名市大病院で医師としてのスタートを切っていただくために、当院も6月19日に東京で開催された日本最大の病院説明会に西部医療センターと合同で参加しました。病院群が織りなす強い連携によって生み出される、ハイレベルな研修について存分に伝えることのできた貴重な機会となりました。さらに月に1回程度WEB説明会を行い、全国の参加者に名市大病院の魅力を紹介しました。

【とうとう念願のフルマッチを達成しました！】

その声が届いたのか、本年度の初期臨床研修医のマッチングで、当院定員37名中37名の完全フルマッチ（100%で全国同率1位）を達成しました。

研修医の指導には医師だけでなく、看護部、薬剤部、中央放射線部、中央臨床検査部ほか院内の皆さんの協力をいただいています。名市大病院が総出で良い研修医を育てようという思いが伝わり、医師国家試験合格の暁に若い力を迎え入れられることを祈念します。

文責 総合研修センター長 林 祐太郎



【兼松副センター長が内科診察のイロハを指導】



【高橋副センター長による外科縫合ハンズオントレーニング】



【東京開催の全国研修医合同説明会に名市大病院群として参加】



【入職時の研修医と理事長・学長・医学研究科長・病院長との交流会】

名市大病院のチカラ Vol.26

食道疾患センター

さまざまな食道疾患に対する高度な診療・治療の実践

2022年6月より、食道疾患センターが開設されました。当センターでは消化器外科、放射線科、消化器内科の医師が一体となり、診療科の枠を超えた専門的なチーム医療を提供しています。

1) 食道がん

- 早期食道がんに対する内視鏡治療(ESD)
- 進行食道がんに対する外科的手術治療(ロボット支援下手術)
- 手術不能進行・再発食道がんに対する化学放射線療法
- がん免疫療法
- 化学放射線療法後遺症、再発食道がんに対する光線力学療法(PDT)

個々の患者さんの状態、がんの進行度に合わせた集学的治療(抗がん剤、放射線、手術などを組み合わせた治療)を合同で行っています。最先端の医療機器、高度な医療技術を駆使した食道がんの治療に精力的に取り組んでいます。Stage IV食道がんに対する免疫療法とPDT併用療法の医師主導治験も開始予定です。

2) 好酸球性食道炎

食物のつかえ感、胸やけ、呑酸などの症状で発症し、気管支喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなどの方に発生しやすいアレルギー性疾患で、最近わが国でも増加傾向にあります。サイトカインに

対する抗体薬剤の国際共同治験も行っています。

3) 胃食道逆流症をはじめとする機能性食道疾患

内服薬で症状が改善しない胃食道逆流症や、アカシアやジャックハンマー食道などに対して、食道内圧測定や24時間pH、インピーダンスモニターなど専門的な検査を行ったうえで、適切な治療を選択します。2022年4月から内視鏡的治療も保険適用になっています。

食道疾患センター専門外来

センター長	消化器内科	片岡洋望教授	木曜日午前
副センター長	消化器外科	小川 了講師	月曜日午前
副センター長	放射線科	富田夏夫准教授	木曜日午前
副センター長	消化器内科	久保田英嗣准教授	水曜日午前



耳鼻いんこう科

両側高度難聴に対する人工内耳手術

当科では、補聴器でも聞こえないような高度の難聴に対する治療として、人工内耳埋込術を積極的に行っております。人工内耳は、耳の奥にある蝸牛という音を聞く器官に細い電極を埋込み、音を感じる神経(蝸牛神経)を直接電気刺激することによって、音を伝える治療です(図)。

昨年の秋に東海テレビで放送された「silent」というドラマが話題になっておりましたが、ご覧になった方も多いと思います。このドラマでは特発性進行性感音難聴という、両側の耳が徐々に聞こえなくなってしまう病気の患者が出てきます。患者は、両側の難聴になってしまったため、音の無い世界に落ちてしまい、手話でコミュニケーションをとります。このような患者さんも人工内耳の手術を行えば、効果に個人差はありますが、多くの場合、聴力改善に期待ができ、これまでと同様に音声でのコミュニケーションをとることが可能になります。

人工内耳の手術は、成人の中途失聴者だけでなく、生まれつき音の聞こえない、先天性難聴に対しても効果があります。先天性難聴の場合は、出来るだけ早期に難聴を発見し、早めに人工内耳を埋め込む方が、より効果が高いことがわかっております。

当科では、人工内耳の手術は、1週間程度の入院で行うことが可能です。両耳の難聴で、補聴器でも聞こえなくて困っている方は、人工内耳の手術についてご相談下さい。

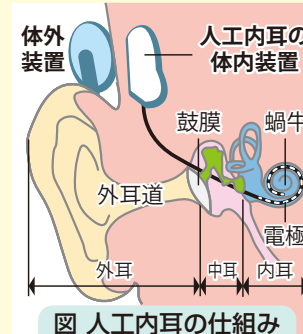


図 人工内耳の仕組み

水曜日午前	岩崎 真一教授	初診外来
木曜日午後	内耳・中耳	外来